

# 地域との共育で志を育てる

～地域教育協議会を核とした地域協育ネットの推進～

【周南市 住吉中学校区】

## 地域の概要

住吉中学校区は、徳山駅前中心市街地の西方に位置し、かつて宿場町として賑わった地域です。人と人の交流が大変盛んで、現在のコミュニティ活動のよりよい基盤となっています。年間を通じて「今宿夏祭り」をはじめ、様々な行事が催され、大人・子どもが一体となって運営に取り組み、地域の活性化に貢献しています。

人 口	12,674 人	
世 帯 数	6,349 世帯	
対象校及び 児童・生徒数	住吉中学校	270 人
	今宿小学校	459 人
	徳山小学校	692 人

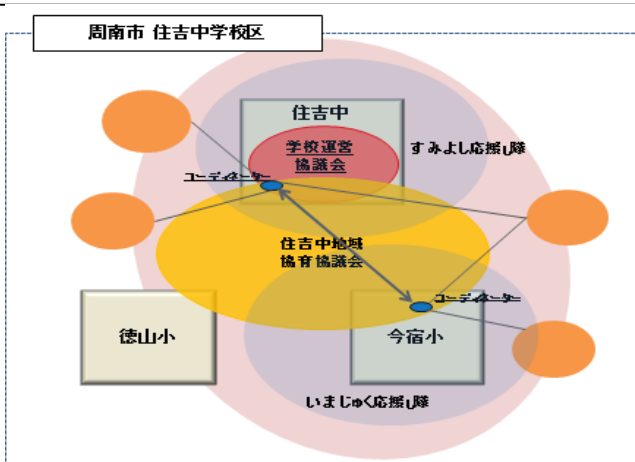
※徳山小学校からは約1割の児童が住吉中学校に入学する。

## 組織の内容

住吉中学校は平成19～20年度、地域との協働実践をめざし、コミュニティ・スクール推進事業調査研究校として文部科学省の指定を受け、学校運営協議会を設置しました。当時の委員から、「コミュニティ・スクールを地域に発信するには時間がかかる」、「話し合いを具現化していく支援組織が必要であり、地域の応援団づくりは不可欠」という声が聞かれました。

そこで、コミュニティ・スクールをより実効性のあるものとするため、平成20～22年度、

学校支援地域本部事業の文部科学省委託を受け、「すみよし応援隊」という学校支援ボランティアの活動を中心に、学校と地域に相互の協力体制を築き、Win-Winの関係づくりを大切にしてきました。平成23年度には、校区内の今宿小学校に学校応援団「いまじゅく応援隊」が発足し、両校の「応援隊」が連携を密にすることで、中学校区をひとまとまりにした学校応援団が整備されつつあります。両校には学校支援コーディネーターが存在し、それぞれの学校のニーズを



地域教育協議会 の構成 (27名)	学校関係者	10名
	P T A関係者	5名
	公民館関係	2名
	コーディネーター	2名
	社会教育団体	2名
	自治会	1名
	その他	5名
登録ボランティア数 (すみよし応援隊)	52名	
登録ボランティア数 (いまじゅく応援隊)	15名	

に支援を行うときにも、スムーズに運営がされるようコーディネーターが行われています。地域協育ネットの仕組みは、コーディネーターの存在により形成されているといっても過言ではありません。学校支援地域本部事業の「地域教育協議会」は、地域を基盤としたメンバーで構成されています。中学校区内の小中学校長も協議会委員であり、学校間の絆を深める場ともなっており、推進母体としての機能を高めています。

地域教育協議会は、コミュニティ・スクールをより実効性、実活動のあるものとしており、住吉中学校区において、学校・家庭・地域のつながりづくりは大きな成果

を上げています。特に、住吉中学校、今宿小学校の小中連携をはじめ、学校の応援団ともいえる「すみよし応援隊」、「いまじゅく応援隊」の果たしている役割は、学校・地域の双方にとって大きいと言えます。

## 学校支援活動（地域から学校への支援）

### （住吉中学校）

- 1 ボランティア募集について
  - (1) 募集チラシ「すみよし応援隊」を中学校区全世帯に配布
  - (2) 公民館にも募集チラシを置くPR活動
- 2 学校支援の様子
  - (1) 緑化活動、環境整備
    - ・ 毎週木曜日の午後をボランティア活動日とし、花の植え替え、花壇の手入れなどを実施
    - ・ 緑化委員会と合同での活動も取り入れ、地域と子どもたちが触れ合う場面を設定
  - (2) 学習支援
    - ・ 各学年毎月1回を目安に、読み聞かせの実施
    - ・ 自主学習の支援として、相談室登校の生徒との交流を深め学習支援を実施
    - ・ 地域の専門家による講話を企画し、以下の内容で実施  
(例) 健康講話、マナー講習、保育体験、性教育講演会など
  - (3) その他
    - ・ 部活動での指導補助
    - ・ 運動会、文化祭におけるバザーや会場準備の手伝い



### （今宿小学校）

- 1 ボランティア募集について
  - (1) 募集チラシ「いまじゅく応援隊」を小学校区全世帯に配布
  - (2) 公民館にも募集チラシを置くPR活動
- 2 学校支援の様子
  - (1) 緑化活動、環境整備
    - ・ 毎月第1月曜日を緑化委員会との協働の日とし、花の植え替え、花壇の手入れなどを実施
    - ・ 学校内の階段手すりや防火扉などのペンキ塗り
    - ・ 校庭の芝生化事業に取り組み、植え付け・水やりなどの活動
  - (2) 学習支援
    - ・ 月に1回のペースで読み聞かせの実施
    - ・ 夏季休業中、小学校教員が中学校に出向き学習指導
    - ・ 地域ボランティアが、折り紙や昔あそびを教える場の設定





## 地域支援活動（学校から地域への支援）

### （住吉中学校）

学校と地域のWin-Winの関係づくりは、住吉中学校区にとっては継続的に信頼関係を築いていく上で大切な仕組みと言えます。それぞれの学校においては、地域への支援活動として様々な活動を行っており、行事の中には「今宿夏祭り」のようにそれぞれの子どもたちが参加するものもあります。

生徒は部活動単位で参加。部活顧問をはじめ、ボランティア担当の教員も手伝いに参加。主に、準備、片付け等の作業を積極的に行っています。



【今宿夏祭り】

児童は、夏祭りの後片付けの場などをとらえて、中学生とともに、各スポーツ少年団単位で、ボランティアを行っています。

美術部を中心に前日準備。趣向を凝らした飾り付けは定評があり、当日は吹奏楽部やボランティアの生徒が様々な面で活動しています。



【敬老会】

### 【ふるさと交流会】



「ふるさと交流会」と称し、地域のお年寄りや聴覚に障害のある方をお招きし、喜んで交流できるように、児童が企画・運営する会を開催しています。

### 【地域での清掃活動】



周南市の大きなイベントである「ツリ祭り」に合わせて、生徒会主催でボランティアを募って清掃活動を行い、約200人の参加がありました。

### 【尚白公園清掃】



近くの公園に6年生が出向き、「いまじゅく応援隊」の方々と一緒になって清掃活動を行いました。

## コーディネーターさんにインタビュー（今宿小学校）

Q：コーディネーターとして、初めての一年はいかがでしたか？

A：本年度は、環境面について色々調査の年としました。

Q：活動をやっていく上で、一番心がけていることは何ですか？

A：登録者がみんな忙しい人なので、無理に負担をかけないように心掛けています。

Q：今年一年間の一番の成果は何だと思いますか？

A：成果はまだまだかもしれませんが、継続する事が大切だと思います。

Q：解決していきたい課題は何ですか？

A：ボランティア登録者を最低10名程度増やし、活動しやすい環境にしていきたいと思っています。長い目で見ていただければと思います。



徳原コーディネーター

## コーディネーターさんにインタビュー（住吉中学校）

Q：コーディネーターをやっていて、やりがいは何ですか？

A：いろいろな人と出会え、ネットワークが広がっていくことです。

Q：活動をやっていく上で、一番苦労することは何ですか？

A：一週間に一回の緑化活動に参加してくださるボランティアの方にとっては、メンバーが固定化してしまい、負担が大きいのではないかと思います。また、仕事をもっている方々はどうしても休日の参加になりますが、そうするとイベント的なボランティア企画が必要となり、学校の行事との調整が難しいと感じています。

Q：これまでの実績を踏まえて、一番の成果は何だと思いますか。

A：学校の中に地域の力が入りやすくなったということだと思います。普段の活動に参加できなくても、参観日には来ていただけるなど、学校と地域の距離はぐんと縮まったと思います。

Q：地域協育ネットの推進に向けて意気込みをお願いします。

A：今ある形を大切にしたいと思います。「すみよし応援隊」と「いまじゅく応援隊」はそれぞれの学校の応援団として特色ある活動をしています。無理のない連携が協育ネットにつながると思います。



戸倉コーディネーター

## 今後の取組

図は、住吉中学校区における未来予想図を示したものです。

小・中学校と幼稚園や保育園との連携については、小学校では卒園前の園児を対象に1年生の授業参観や交流会を、中学校では保育実習や職場体験といった形で生徒が各園に出向いて行く活動などを行っています。また、「すみよし応援隊」が、同地区の幼稚園でもちつきの手伝いを行うなど、学校の応援団がその枠にとどまらず、地域の応援団としても活動しています。今後も地域の支援を受けながら、幼保・小・中の縦の連携を深めていく

ことは、地域協育ネットの基盤づくりになると捉えています。

学校を支援する地域の各団体（応援団）の連携をより深めていくねらいで、情報交換会が平成23年度末に実施され、それぞれの応援団が成果や課題点などについて話し合いました。これからの方向性について、いろいろな立場からの意見を交流し、さらなる連携の可能性が広がったようです。

このように、住吉中学校区においては、学校・家庭・地域の協働による学校づくりを進める中で、地域づくりも同時に行ってきたと言えます。この気運を大切に、無理のない連携を進めていくことが、住吉中学校区地域協育ネットの推進の大切なポイントになっています。

